

まちかど・ズームIN!

子供たちへの素敵な贈り物 大作曲家とピアノで遊ぼう



ホワイトキューブで7月16日、羽田健太郎さんや服部克久さん、三枝成彰さんなど11人の作曲家と子供たちのピアノを囲んだジョイントコンサート「大作曲家とピアノで遊ぼう」が開かれました。

参加したのはオーディションに合格した約40名の子供たちで、子供たちのソロ演奏や作曲家とのピアノ連弾などを披露。最後に「白石子守歌」を全員で合唱しました。子供たちの表情からは、貴重な体験への緊張と喜びがうかがえました。

物を大切に...いつまでも使ってネ おもちゃの病院

白石工業高校機械部の生徒たちが8月1日と6日、いきいきプラザ2階に「おもちゃの病院」を開設し、子供たちとふれあいながら壊れたおもちゃの治療にあたりました。

これは昨年に続いて開かれたもので、生徒たちは、小さな子供を持つお母さんたちが持ち込んだ車や飛行機などのおもちゃを、テスターやはんだごてなどを使って手際よく修理しました。



「相撲甚句」で まちを元気に

青年会議所が相撲甚句のCDを作製



わんぱく相撲仙南場所の開催や大相撲夏巡業仙南場所の誘致、そして昨年の大砲万右衛門銅像の建立など、相撲をテーマにしたまちづくりを進めている白石青年会議所が、仙台相撲甚句会の協力を得て、相撲甚句のCDを作製しました。

パッケージに白石和紙を使い、録音はホワイトキューブコンサートホールで行われたCDには、白石ゆかりの力士「初代谷風」や白石出身の横綱「大砲万右衛門」の活躍ぶりなどを歌ったものや、白石城や武家屋敷などを盛り込んだ「白石名所」な

ど7曲が収録されています。8月10日、市役所を訪れた青年会議所の阿子島理事長は、市のPRなどに使ってほしいと川井市長にCD50枚を贈呈し、「今後も、相撲をテーマにしたまちづくりを進めていきたい」と話していました。



元気に行ってきました 登別市と少年スポーツ交流



8月5日から7日まで、姉妹都市登別市と白石市の少年たちのスポーツ交流が登別市で行われ、今回の交流種目である柔道と空手の各12名の選手が登別市を訪問しました。

交流試合は、柔道の菊地諭くん(白中1年)と空手の奥田健太くん(白一小6年)の選手宣誓を受けてスタート。2つの種目ともに、最後の対戦まで優勝の行方がわからない白熱した試合展開でした。団体戦の結果は、柔道は白石チームが優勝、空手は引き分けとなりました。

自分で作る楽しみ味わう 親子木工教室



8月6日、夏休み工作の宿題を作りながら木に親しんでもらおうと、白石市建設職組合青年部が主催した「親子木工教室」が中央公民館で開催されました。

参加した約80組の親子は、プロの大工さんの指導を受けながら巣箱、本立て、ちりとり作りなどに挑戦。大工道具に触れる機会が少ない子供たちは、くぎの打ち方などで苦戦していましたが、3時間後には立派な作品を作り上げ、「夏休みの宿題ができた」と喜んでいました。

みなさんからの素敵な 情報を待ってます!

お口も健康になりました デイサービス歯科健康診査

7月10日から14日まで、吹上荘でデイサービスを利用しているお年寄り約100人を対象に、白石歯科医師会の協力を得て「歯科健康診査」が行われました。



歯科健康診査では、歯の診察や歯磨き指導などが行われたほか、治療が必要な方には、医師がお年寄りの自宅へ行って治療する「訪問歯科診療」も行われました。

10月には、デイサービスセンター茶園でも実施される予定です。

暑い夏をふきとばせ!! 白石音頭パレード



8月11日、市内の企業や子供会など19団体、約1,650人が参加して「白石音頭パレード」が行われました。午後7時から2時間近く続いたパレードは、それぞれ工夫を凝らした白石音頭踊りや、手作りのみこしなどを繰り出して競い合い、市民の熱気が一気に高まりました。

八月九日、第三次仙南地域ふるさと市町村圏計画策定第二回アドバイザー委員会が開催された。委員は東北工業大学教授の矢内諭先生、同じく宮城大学教授の宮原博通先生、そして藤崎快適生活研究所取締役の牛尾陽子さんの三人と私である。

その中で、これは仙南と限らず宮城県全体に言えることであるが、どうも行政頼りになりすぎる。なんでもみな行政がやれというような傾向が他県と比べて強すぎるという意見が異口同音に出た。そこで私はつくし公園の話をした。

「先生方のおっしゃることもよく分かりますが、それは従来行政が一方的にやって、さあ、こういうものができたからこれを使ってください、という用法を取りすぎていたからではないでしょうか。その辺で発想の転換があってもいいと思います。」



川井市長の せせらぎトーク

つくし公園

一方で、ゲートボール愛好者の皆さんや自治会の方々もこの土地をぜひ活用したいとの要

望においてになりました。そこで、市職員と若いお母さん方とゲートボールのメンバーと自治会の皆さん方でこの用地をどう利用するかというワークショップを開催しました。その中にはいろいろな提案が出ました。例えば、碧水園で使用する駐車場が満杯になった場合、しきりを外せばゲートボール場の中にも車輦が入れるような構造にすべきである。未就学児のための公園だから、その遊具などは小さい子供に合うサイズにしてほしい。木造のトイレが欲しい。時計台が欲しい……。

いろいろな意見が出され、話し合いをした結果生まれたのがこの公園です。なお公園の名前は、最初担当課では地名をとって田町公園にしようとしたが、もう一度持ち帰って皆さんと相談してみようと言ったところ、つくし公園という名ができました。その名を聞いたとき、「つくし誰の子すぎなの子」という昔の小学校読本の文章を思い浮かべ、大変ほほえましく思いました。

驚いたことに、ワークショップに参加しこの公園を利用しようとするメンバーから、維

持管理を自分たちの手でやるつという声が出上がりました。そこでつくし公園の維持管理は利用者の方が運営委員会を設けて行われております。ワークショップという手法を用いて住民のニーズに適切した施設を作れば、維持管理まで自分たちの手でやるつという気運が盛り上がってくるのだと思います。なお、十五日には盆踊り大会が開催されるということと招待状を頂いております。

先生方は驚いて、「それは素晴らしい。町おこしの例としてどこかでぜひ発表したいので、詳しく調べさせてほしい。」という声まで出た。私は、「ただ、同じ時期にできたもう一つの公園は従来の補助事業の方式をとったため、残念ながら維持管理まで地元の方々がおやりになるという形にはなりません。行政の対応によって大きな差があることはこの例からも分かります。」と話を結んだ。

小さな公園に先生方がこれほどの興味を示し感心されたのは、やはり住民の皆さんと行政が一緒になって考え、行動するというワークショップ方式の大きな成果だろう。